

No.3

2018.10.25  
14:30第41回 日本基督教団総会  
2018年10月23日(火)~25日(木)

† 総会速報発行委員会 発行

# 速報

## 雲 然 俊 選 美 書 再 記

3日目、書記選挙は慣例に従い、議長・副議長により、雲然俊美現書記が推薦され、議場は承認した。

雲然書記は「まさか総会書記5期目をすることになるとは思っていなかった。いろいろ事情があり今回は受けるのは本当に辛い。けれども神の召しと受け止めたい。教団書記の務めは教規第15条にある通り、議長のもとに会議を整えることである。その会議はただの会議ではない。教憲に書いてあるが『イエス・キリストを首と仰ぐ』教会の会議である。教憲があり教規があ

る。会議が円滑に進むだけではなく、主イエス・キリストの主権が、その栄光が表されるようなかたちで会議を整えるのが書記の務めであると承っている。その働きに努めたい。ただ一人の力ではできない。ぜひ皆様にはお祈りしていただきたい。二つ目に教団の幹事・職員が本当によくやっている。そうでなければ会議は持てないし、私の通常の働きもできない。その働きに感謝している。三つ目に私が仕えている秋田桜教会と兼牧している下浜教会の支えに本当に感謝している。

秋田桜教会は10月10日に教会創立30周年を迎えた開拓伝道の教会である。30年で受洗者33名。地方にあって明るく一生懸命伝道している。その中で教団の全体教会としての在り方を伝道と共にしなていきたいと思う。よろしくお願ひいたします」と述べた。

雲然書記のために岩田昌路議員が祈祷を捧げた。



## 聖 餐 礼 拝

### 「あなたの未来には希望がある」

黒田若雄牧師(高知教会)による説教



預言者エレミヤの時代にイスラエルは、バビロンに大敗を期しました。神の民イスラエルにとって、敗北はあるはずのないことでした。神が共においでくださる民には、勝利し続ける未来しかなかったのです。民は、敗北と捕囚は、神に見捨てられたゆえだと受けとめました。民の真実の絶望は、そのために、今後の展望を持てなくなつたことにあつたのです。

この民に、神は語られました。「泣きやむがよい。あなたの苦しみは報いられる。神は、いつか良いことがあるから今は耐えよ、と言われているのではありません。

主はこう言われる。ラマで声が聞こえる。苦悩に満ちて嘆き、泣く声が。ラケルが息子たちのゆえに泣いている。彼女は慰めを拒む。息子たちはもういないのだから。

主はこう言われる。泣きやむがよい。目から涙をぬぐいなさい。あなたの苦しみは報いられる、と主は言われる。息子たちは敵の国から帰つて来る。あなたに未来には希望がある、と主は言われる。息子たちは自分の国に帰つて来る。

エレミヤ書31章15～17節

今年、創立130年を迎えた高知教会は、1945年7月に高知大空襲に遭いました。内部が全焼しました。この神が、主を信じる私たちを未来へと導き続けます。ここに希望があります。

イスラエルは、バビロンに敗北を期しました。神の民イスラエルにとって、敗北はあるはずのことでした。神が共においでくださる民には、勝利し続ける未来しかなかったのです。民は、敗北と捕囚は、神に見捨てられたゆえだと受けとめました。民の真実の絶望は、そのために、今後の展望を持てなくなつたことにあつたのです。

この民に、神は語られました。「泣きやむがよい。あなたの苦しみは報いられる。神は、いつか良いことがあるから今は耐えよ、と言われているのではありません。主のご計画にゆだね、必ず支え導いてくださる主を信じて希望をいただき、為すべき務めに全力をそそいでまいりましょう。

## 第二日目 夜 部落解放劇

### さようなら無関心ー関係者でいこう！

そこへ、アレクサンドロとルフォスとの父でシモンというキレネ人が、田舎から出て来て通りかかったので、兵士たちはイエスの十字架を無理に担がせた。

(マルコによる福音書 15章 21節)



教団総会ごとに行われる部落解放劇が50分ほどの上演時間で行われた。

香澄さんと遙君、二人の教会青年が「部落解放青年ゼミナール」実行委員会に参加して劇が進む。遙君は部落差別問題について詳しくないが、香澄さんに誘われてはじめて実行委員会に参加する。委員会では、武牧師に導かれながら、今年の教団総会に上演する解放劇についての話し合いがはじまる。差別問題をめぐる経験を寸劇の仕方で披露して解放劇に仕立てゆく。焼肉パーティーでの精肉業者の話。被差別部落に建つ学校に遣わされた教師の話。同和地区近くの極端に安い土地の売買を巡る話。演じられる寸劇と幕間に入れられた東谷誠センター運営委員長のワンポイントトレッスンで差別問題の理解を深める工夫をする。

「寝た子を起こすな」と言うことで問題を避け、そのままにして忘れるのを待つことや、「部落分散論」と言われることによって、被差別部落を出て他のところに住まえばわからなくなる、といったことでは差別は無くならないことを指摘する。

部落差別問題に疎かった遙君も、他の実行委員たちと一緒に劇を準備してゆく中で問題の理解を深めてゆく。最後に「さようなら無関心ー関係者でいこう！」という今年の解放劇の題が決まる。

青年たちは、信じることだけでは差別はなくならない、と信仰と差別問題に悩む。しかし、確かになくならないかもしれないが、信じることで問題に取り組むための力を持つことができるはずだ、と道を見出してゆく。「課題から信仰へ」ではなく、「信仰から課題へ」という信仰の秩序を教会の青年たちが発見することが印象に残った。劇中の青年たちにも、観劇する者たちにも差別問題の現実を知ってもらうため、高いハードルを下げようという工夫がいくつも見られた。

また台本を持った半朗読劇で長いせりふが多かったが、はっきりと聞こえ理解しやすく、効果的なBGMと相まって見る者を劇に引き込む力があった。

#### 常議員選挙結果について

速報の議場配付は間に合いませんでした。  
速報No.3のWeb版では、ご覧になります。

URL [www.uccj.org](http://www.uccj.org)